

九州医師会連合会第 406 回常任委員会



会長 安里 哲好

去る 5 月 9 日（火）、標記常任委員会が Web 会議で開催されたので概要を報告する。

今回の常任委員会は、来る 6 月 25（日）に開催される日本医師会第 154 回定例代議員会において常任理事 4 人増員に伴う選任選定が行われることになっていることから、九州ブロックからの推薦について協議が行われた。

協 議

1) 九州ブロックからの日本医師会常任理事推薦について（大分）

協議の結果、福岡県医師会理事の濱口欣也先生を推薦することに決定した。

濱口先生意見表明

福岡県医師会理事の濱口欣也と申します。本日は、ご挨拶の機会を頂きまして有難うございます。福岡県では、母体保護法、医事調停、医療安全、母子保健、学校保健、地域医療等を担当しています。

また、日本産婦人科医会医療安全委員会委員として、日本母体究明システム普及協議会ディレクターを務め、県内の 4 大学を中心として周産期センターの若い医師やコメディカルを対象に 30 人以上のインストラクターを養成しました。その他、日本医療安全機構医療事故調査支援センターの専門部会産科危機的出血にかかる母体死亡事例部会員も務めています。

産婦人科を取り巻く問題は、妊婦コロナ対策をはじめ、産科医療機関における医師の働き方改革、全世代型社会保障制度法案重要事項である出産一時金増額の明文化、出産費用の保険適用化、不妊治療の保険診療、母体保護手術の同意について、経口中絶薬の運用等の問題が山積しています。

この度の、日本医師会常任理事選挙に、九州ブロックからご推薦をいただき当選した暁には、諸問題の解決に向け粉骨砕身努力する所存ですので、皆様のご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

